

平成22年度（2010年度）
ヤマハ発動機スポーツ振興財団
年間事業報告書

YMFS
www.ymfs.jp



公益財団法人
ヤマハ発動機スポーツ振興財団
Yamaha Motor Foundation for Sports

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500
Tel. 0538-32-9827 Fax. 0538-32-1112

公益財団法人
ヤマハ発動機スポーツ振興財団
Yamaha Motor Foundation for Sports

CONTENTS

□はじめに ————— 2

■平成22年度 事業活動カレンダー ————— 3

■平成22年度 財団スタンス ————— 4

■平成22年度 主な事業活動テーマ ————— 4

■平成22年度 個別事業総括 ————— 5

(Ⅰ) スポーツチャレンジ助成事業

- ①第4期生およびOBチャレンジャーの主な活躍
- ②チャレンジャーサポートの充実
- ③第5期生の募集と決定

(Ⅱ) スポーツ振興支援事業

- ①ジュニアヨットスクール葉山
- ②セーリング教材をWebサイトに掲載
- ③スポーツ教材提供
- ④第22回「全国児童水辺の風景画」コンテスト

(Ⅲ) スポーツ文化・啓発事業

- ①第3回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞
- ②スポーツ発展途上人に対してアンケートを実施
- ③Webサイトのリニューアル

■第2ステージへの布石 ————— 15

(Ⅰ) ITの活用・対応

(Ⅱ) 組織体制の充実

～平成 22 年度の事業活動を振り返って～

平成 22 年度（2010 年 4 月～ 2011 年 3 月）は、バンクーバー冬季オリンピック／パラリンピックの余韻が残る中、サッカー W 杯南アフリカ大会や広州アジア大会での日本勢の活躍があったものの、その一方では大相撲の八百長問題が起こり、スポーツ界に対する社会の厳しい批判も受けました。

そうした中で 8 月には政府から「スポーツ立国戦略」が出され、スポーツ基本法制定に向けて動き始めると同時に、スポーツ庁設置の声も高まりつつあります。

また、3 月 11 日には東日本大震災が発生しました。この未曾有の大災害は東北から関東にかけて大きな被害をもたらし、その影響は日本のみならず世界にも広がっています。被災された人々はもちろん、家族や親戚、地域を含めて、国民が受けた心の痛みや苦しさははかり知れません。

それでも日本人は助け合いの精神や感謝の心をもって立ち直ろうとしています。このような時、スポーツは、いかに社会の役に立てるのかを問われています。世界で活躍する日本人やその仲間、それだけではなく、スポーツとは関わりのない世界の人々からも大きな支援声援を受けるなかで、私たち日本人がいかにこの難局を乗り越えることができるのか、今まさにその力を発揮する時であります。

私たちは、この大きな課題を念頭に置き、来年度以降もさらなる努力を続けてまいります。

さて、平成 22 年度は、昨年度、国から公益財団法人として認定されたことを受け、次期ステージの目標である「公益財団法人として社会から認められる財団」になるための足掛かりの年と位置付けて各事業活動を展開しました。震災の影響を受け、計画していた一部行事を中止したものの、全体を通して実りの多い年であったと総括しています。

一つは、財団設立から 4 年を経て、それぞれの事業において確実な成果が顕在化し始めたこと。もう一つは、次なるステージに向けて、インフラや組織体制の整備・強化など、実効性の高い布石を打てたことです。

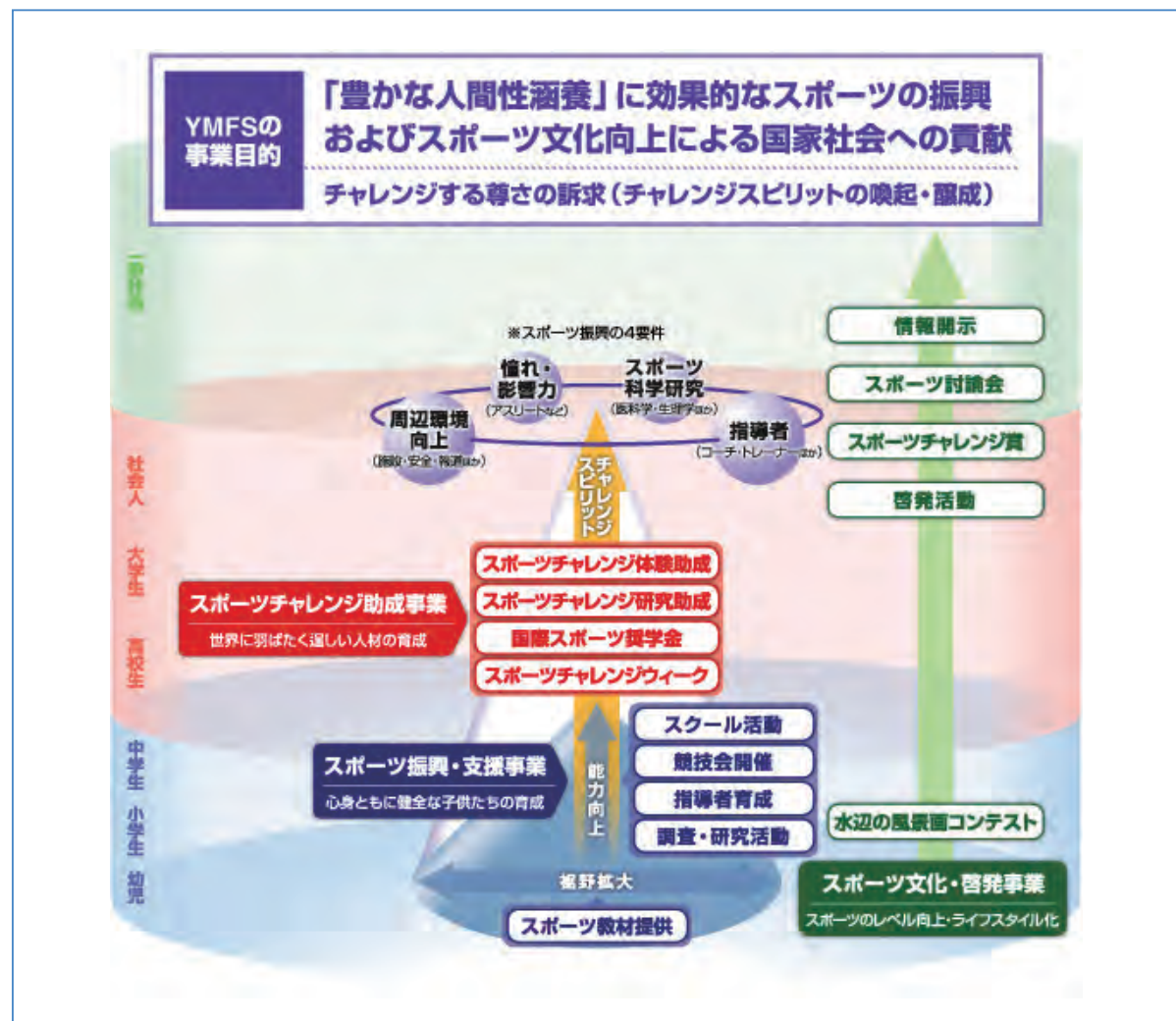
中でも、スポーツチャレンジ助成事業においては、第 4 期生のチャレンジ達成もさることながら、第 1 期生から第 3 期生までの、いわゆるOBチャレンジャーの実績が顕著に表れ始めました。また、セーリング振興では、夏季に自然水辺体験学習を実施し、子どもたちの成長を実感しました。さらに第 3 回スポーツチャレンジ賞については、徐々にコンセプトが浸透し多くの推薦が寄せられ、素晴らしいチャレンジを表彰することができました。そのほかの事業についても確実に成果をあげました。

詳細は次ページから紹介させていただきますが、平成 22 年度は当財団にとって着実に歩みを進めた年であり、次期ステージへの足掛かりを築いた年でもあります。これからも着実に公益性の高い事業を進めてまいりますので、なにとぞご指導をよろしくお願いします。

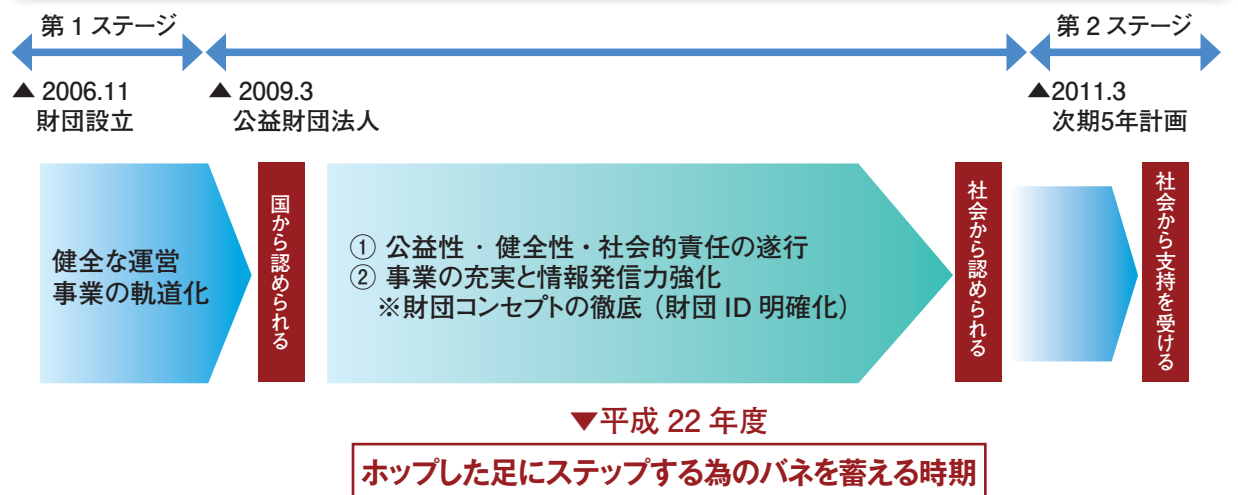
平成 22 年度 事業活動カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
財団運営関連		第1回理事会	10 評議員選定委員会 10 第1回評議員会				21 第2回理事会			20 第3回理事会		
事業関連		11 葉山スクール 新年度開始		18 着衣泳 安全講習	5-9 合宿 黒姫山 トレッキング	27-28 大島 クルージング	3 ボランティア活動 逗子海岸清掃					
スポーツ振興支援事業	15 スポーツ教材提供 募集 31		10 抽選・配布			1 水辺の風景画コンテスト募集 30	26 審査・入賞者決定			3月11日の東日本大震災による深刻な状況を踏まえ「第19回セーリング チャレンジカップ IN 浜名湖」[第4回スポーツチャレンジウィーク]を中止		
スポーツチャレンジ助成事業		18 中間報告会 (体験)	5 中間報告会 (奨学生)	30 中間報告会 (体験)	16 中間報告会 (体験)	14 中間報告会 (研究)	2 中間報告会 (研究)	17 中間報告会 (OB・奨学生)				
スポーツ文化・啓発事業						1 第5期生募集 (電子申請)	15 9 書類審査	20-21 面接審査				
						1 第3回 スポーツチャレンジ賞 候補者推薦受付開始	10 賞選考 事務局会議 25-26 賞選考委員会	8 Web サイト リニューアル				

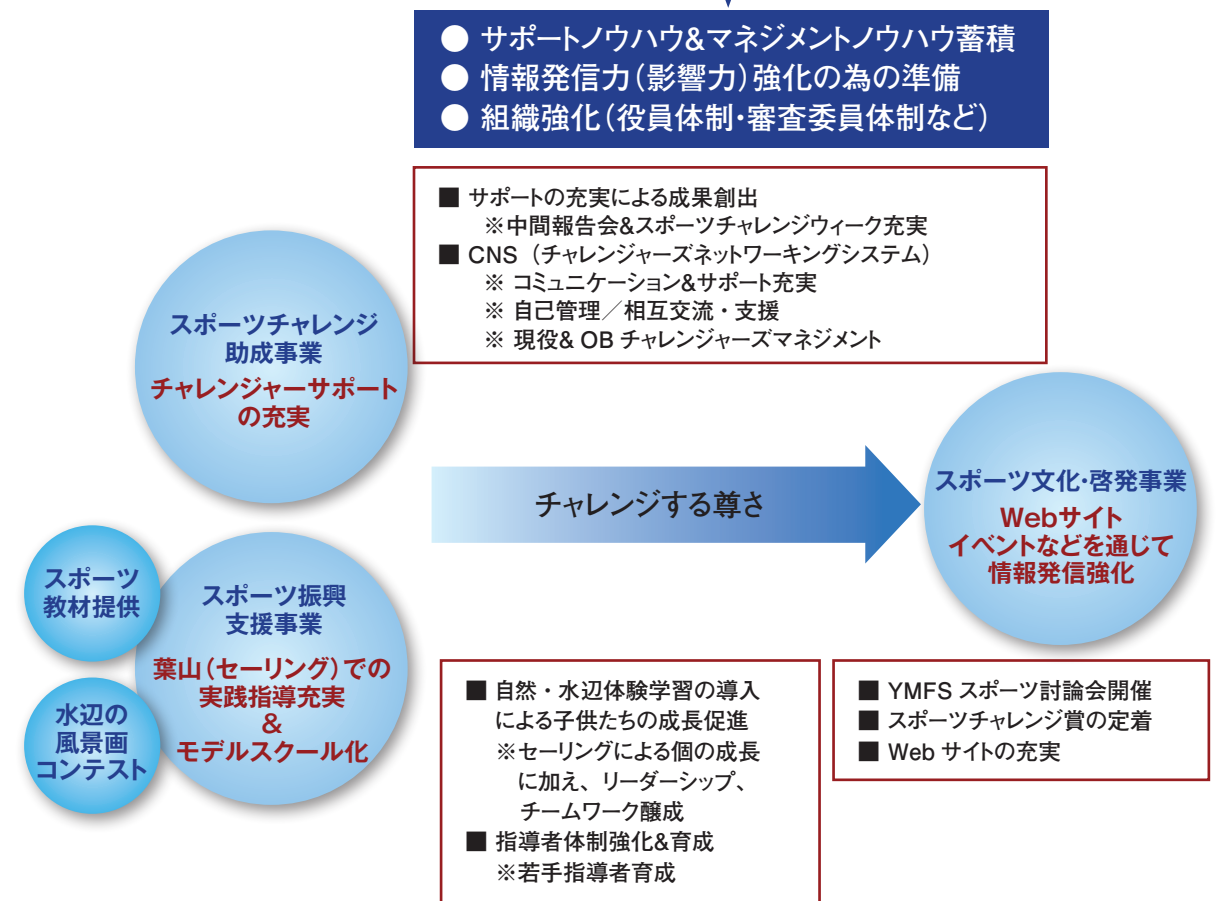
【事業概念図】



平成 22 年度 財団スタンス



平成 22 年度 主な事業活動テーマ



◆ 2010年度の事業総括

今年度は、第2ステージ・公益財団法人として社会に認められる財団になるための足がかりの年と位置づけ、活動しました。総括すると、下記の2点に集約でき、大変実りの多い年であったと言えます。

- 財団設立から約4年が経ち各事業が浸透してきたことに加え、各事業活動の進化・充実を図った結果、各事業実績や成果が顕著に表れてきました。
- また、第2ステージに向けての布石として、インフラの向上、体制強化などを実施しました。

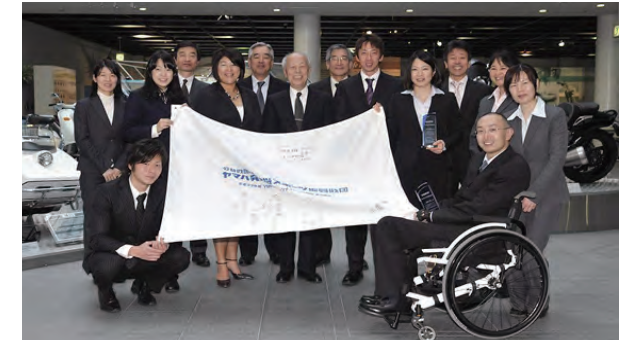
平成 22 年度 個別事業総括

(I) スポーツチャレンジ助成事業

- ① 今年度は、スポーツチャレンジ助成事業の4年目を迎え、体験助成・研究助成ともに、第4期生チャレンジャーの活躍に加え、第1期生～第3期生チャレンジャー（以下 OB チャレンジャー）のチャレンジ成果が顕著に表れるなど、助成金給付期以降も続けている OB へのサポートの成果が出はじめました。
- ② チャレンジ成果の創出を促進すべくチャレンジャーサポートを今まで以上に充実しました。
※チャレンジャーの活動報告は Web サイトもしくは別綴報告書でご確認ください。
- ③ 第5期生チャレンジャーを募集し32名のチャレンジャーを決定しました。

平成 22 年度 YMFS スポーツチャレンジ助成 エリア別活動報告会 実施報告

当財団では、東日本大震災の深刻な状況を踏まえ、3月14～16日にヤマハリゾートつま恋（静岡県）で予定していた「第4回 YMFS スポーツチャレンジウィーク」の開催を中止しました。しかしながら、助成対象者が目標を達成するためには、チャレンジのプロセスと成果を共有する機会が不可欠と考え、3月26日に静岡で小規模報告会を実施しました。また、合わせて第5期生の助成金贈呈式を開催しました。



① 第4期生および OB チャレンジャーの主な活躍

▼体験チャレンジャーの主な実績



- 岡本達也さん（体験チャレンジャー 第1期・第2期生：サッカー）
【テーマ】世界で活躍する選手になる為に ～ Jリーガーへの再チャレンジ ～
【実績】Jリーガー復帰（水戸ホーリーホック）



- リバーフェイスさん（体験チャレンジャー 第2期・第3期生：レースラフティング）
【テーマ】ラフティング世界大会で表彰台を目指す
【実績】2010世界大会（オランダ）女子4人乗りで優勝



- 黒須成美さん（体験チャレンジャー 第3期生：女子近代5種）
【テーマ】ロンドンオリンピックに向けて
【実績】2010日本選手権優勝（初代王者）



- 小島智子さん（体験チャレンジャー第1期・第2期・第4期生：チアリーディング）
【テーマ】NFL チアリーダー8年連続合格
【実績】NFL タンパベイ・バッカニアーズのチアリーダーに8年連続合格とともにチームリーダーにも選出 ※ いずれも日本人初

▼研究チャレンジャーの主な成果 = 論文採択・受賞



- 田中美吏さん
（研究チャレンジャー 第1期生：広島大学大学院 身体運動心理学研究室）
【テーマ】心理的プレッシャーによってなぜ運動パフォーマンスが低下するか？
—認知的側面と行動的側面の影響—
【論文】『Factor analysis of the mechanisms underlying “choking under pressure” in sports』
【掲載誌】『Asian Journal of Exercise and Sports Science, 7, 55-60, 2010』

【受賞】日本体育学会 2010 年度奨励賞
※受賞論文 『「あがり」の発現機序の質的研究』
掲載雑誌『体育学研究, 54, 263-277, 2009』



- 三浦哲都さん（研究チャレンジャー 第4期生：東京大学大学院）
【受賞】2010 年 10 月 28 ～ 31 日 イギリス バーミンガム
第 20 回国際ダンス医科学会大会 Student Travel Grant 受賞
【受賞】2010 年 12 月 18 ～ 19 日 福岡大学
第 23 回日本トレーニング科学会大会 トレーニング科学研究賞受賞



- 橋本健志さん（研究チャレンジャー 第4期生）
【受賞】日本体力医学会 学術奨励賞
【シンポジウム参加】イギリス・リバプールにて開催される「2011 年ヨーロッパスポーツ科学会議 (ECSS) / 日本体力医学会 (JSPFSM) 合同シンポジウム」(2011 年 7 月 6 ～ 9 日) に、シンポジストとして参加予定。演題は、“In Vivo and in vitro analyses of exercise-inducible factors to activate lipolysis in adipocytes”

平成 22 年度 個別事業総括

※参考 — OB チャレンジャーの過去の実績 —

- 原田窓香さん（体験チャレンジャー 第2期・第3期生：女子リュージュ）
 - 【テーマ】 バンクーバーオリンピック出場および上位入賞の為に
 - 【実績】 2010年 バンクーバーオリンピック出場 26位
- リバーフェイスさん（体験チャレンジャー 第2期・第3期生：レースラフティング）
 - 【テーマ】 ラフティング世界大会で表彰台を目指す
 - 【実績】 2009年 世界大会（ボスニア）女子6人乗りで2位
- 山本篤さん（体験チャレンジャー 第1期生：障がい者陸上）
 - 【テーマ】 陸上競技100m・走り幅跳び 北京パラリンピックへの挑戦
 - 【実績】 2008年 北京パラリンピック 陸上100m（5位入賞） 走り幅跳び 5m84（銀メダル）
- 渡邊航平さん（研究チャレンジャー 第3期生：京都大学）
 - 【テーマ】 超音波画像法を併用した表面筋電図の新たな記録技術 — 内転筋群への適用例
 - 【論文】 『Normalized EMG to normalized torque relationship of vastus intermedius muscle during isometric knee extension』
 - 【掲載誌】 『European Journal of Applied Physiology』
 - 【受賞】 2008年日本体育学会第 59 回大会 学生研究コンペティション 最優秀賞（自然科学部門・優秀賞も含む）を秋間宏さんと共同研究で受賞
- 片山敬章（研究チャレンジャー 第2期生 名古屋大学総合保健体育科学センター）
 - 【テーマ】 低酸素トレーニングによる生活習慣病改善・予防の可能性 —糖代謝、脂質代謝に着目して—
 - 【論文】 『Substrate utilization during exercise and recovery at moderate altitude』
 - 【掲載誌】 『metabolismjournal』
- 秋間 宏（研究チャレンジャー 第1期生 名古屋大学総合保健体育科学センター）
 - 【テーマ】 深層筋である大腿部の中間広筋の筋活動を記録する試み
 - 【論文】 『Cross-talk from adjacent muscle has a negligible effect on surface electromyographic activity of vastus intermedius muscle during isometric contraction』
 - 【掲載誌】 『Journal of Electromyography and Kinesiology』
 - 【受賞】 2008 年日本体育学会第 59 回大会 学生研究コンペティション 最優秀賞（自然科学部門・優秀賞も含む）を渡邊航平さんと共同研究で受賞
- 小倉裕司（研究チャレンジャー 第1期生 順天堂大学スポーツ医科学研究所）
 - 【テーマ】 日本人における ACTN3 遺伝子型と筋線維組成の関わり
～ ACTN3 遺伝子型はタレント発掘のツールとなり得るか?～
 - 【論文】 『different adaptations of alpha-actinin isoforms to exercise training in rat skeletal muscles』
 - 【掲載誌】 『Acta Physiologica』
 - 【論文】 『Alpha-actinin-3 levels increase concomitantly with fast fibers in rat soleus muscle』
 - 【掲載誌】 『Biochemical and Biophysical Research Communications』

②チャレンジャーサポートの充実

▼ 中間報告会の充実

- チャレンジャーが年間目標を達成するために、約半年を経過したところでチャレンジ進捗を確認するとともに後半の取組みを見直す機会として、審査委員の先生方への中間報告会を実施しました。
今年度は体験で6回、研究で2回の中間報告会を実施し、第4期生の全員が報告をしました。



体験チャレンジャー1名(6月)



奨学生チャレンジャー1名(7月)



体験チャレンジャー4名(8月)

体験2名
研究1名
(9月)

研究 チャレンジャー6名 (10月)



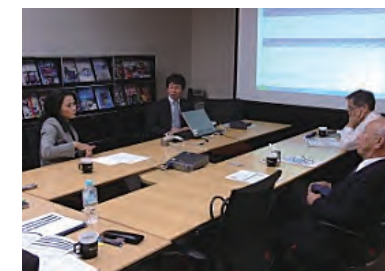
研究 チャレンジャー4名 (11月)



研究 チャレンジャー6名 (10月)



研究 チャレンジャー4名 (11月)



体験チャレンジャー 1名(11月)

体験 1名
奨学生1名
(12月)

※第4回スポーツチャレンジウィークは東日本大震災の影響により中止しました。

毎年開催しておりましたチャレンジャーの1年間の総決算であるスポーツチャレンジウィークは、東日本大震災の深刻な状況を踏まえ、中止としました。

※チャレンジャー、審査委員、事務局のコミュニケーションを活性化することで、目標達成の励みとする目的でチャレンジャーズ ネットワーキング システム（CNS）を構築・運用しました。

平成22年度 個別事業総括

③第5期生の募集と決定

- 今年度から電子申請方式を採用し、申請手続きの簡便化を図りました。
- 結果、151件(前年150件)の応募があり、書類審査、面接審査を経て、合計32名(体験 14名、研究 14名、国際スポーツ奨学生 4名)が第5期生として選ばれました。



体験チャレンジャー面接



研究チャレンジャー面接

YMFS スポーツチャレンジ体験助成 第5期生対象者			
氏名 年齢	競技名／種類	体験テーマ	所属
守田 泰弘 23 歳	レスリング／選手 55Kg 級フリー	世界選手権表彰台を目指し、夢のロンドンオリンピック代表	日本体育大学大学院 修士 1 年
伊藤健太 20 歳	水泳／選手 50 / 100m 自由形	ロンドンオリンピックで 50m 自由形及び 100m 自由形での決勝進出	中京大学 2 年
今井沙緒里 20 歳	陸上／選手 100 / 200m	ロンドン五輪のファイナリストとして夢の決勝レースを走るための挑戦	至学館大学短大部 2 年
西牧未央 23 歳	レスリング／選手 63kg級	ロンドンオリンピックを目指して	至学館大学大学院 修士 1 年
山下はるな 20 歳	トランポリン／選手	トランポリン世界選手権、ロンドンオリンピック出場に向けた取り組み	静岡産業大学 2 年
春田純 32 歳	障がい者 陸上／選手 T44 100 / 200m	ロンドンパラリンピック出場 日本人初の 11 秒台への挑戦	会社員
後藤史 24 歳	サッカー／選手	2015 年 W 杯に日本代表選手として出場し、優勝に貢献できるようスペイン女子サッカーリーグでプレーする	早稲田大卒 ラーヨ・バジェカーノ所属
平響 18 歳	エア・ピストル(射撃)／選手	ロンドン五輪にエア・ピストル(射撃)選手として、競技歴 1 年しかも民間人から代表入りを目指します!	新潟明訓高校 3 年
我孫子智美 22 歳	陸上／選手 棒高跳び	世界陸上競技選手権大会およびオリンピック大会への出場と入賞を目指して	同志社大卒 滋賀レークスターズ
鈴木康大 25 歳	カヌー／選手 シングル 1000m	20 年以上オリンピック出場を逃すカヌースプリント競技で、ロンドン五輪に私が出場する計画	立命館大卒 滋賀レークスターズ
高嵩遥 23 歳	アイスホッケー／選手	2014 年ソチオリンピックを目指して～自身 3 度目となる挑戦	早稲田大卒 ZSC LIONS 所属
柴谷晋 35 歳	障がい者 デフラグビー／選手・指導者	選手としてデフラグビー日本代表 15 人制テストマッチ初勝利、コーチとして戦術研究、競技の発展を目指す	上智大卒 私立茗溪学園講師
上原康士朗 19 歳	フェンシング／選手エペ	日本人・国際人として世界を歩いて「UEHARA KOSHIRO」を広く、明るくメッセージする	専修大学 1 年
川合結万 21 歳	シンクロナイズドスイミング／選手	ロンドン五輪シンクロナイズドスイミング競技でのメダル奪還を目指す日本代表への挑戦	同志社大学 3 年

YMFS スポーツチャレンジ研究助成 第5期生対象者		
氏名 年齢	研究テーマ	所属
山浦 一保 38 歳	アスリートのキャリア発達上における危機的経験からの飛躍に関する研究	立命館大学 スポーツ健康科学部 准教授
尾崎準朗 26 歳	血流制限下の歩行運動が筋サイズ及び有酸素能を同時改善するメカニズムの解明に関する研究	順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科博士課程 1 年
牛山潤一 33 歳	静的筋収縮時にみられる運動皮質-筋間の同調的活動が発揮張力の安定性に及ぼす影響	慶應義塾大学 医学部リハビリテーション医学教室特別研究助教
宮本志吉 43 歳	運動時の呼吸循環系を制御する高次脳機能メカニズムの統合的理解—予測・見込み的制御の運動生理学的意義—	森ノ宮医療大学 保健医療学部 教授
山口鉄生 39 歳	骨格筋損傷～筋再生加速化への挑戦	国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 病態総合研究部研究科
樋口貴俊 26 歳	活動依存性増強を用いた野球打撃前のウォーミングアップ法の有効性	早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科 スポーツ神経科学研究室博士課程 1 年
吉村英一 27 歳	急速減量・急速回復時のエネルギー代謝と体組成の変化に着目した研究	福岡大学大学院 スポーツ健康科学研究科 運動生理学研究室博士課程 3 年
家光素行 37 歳	性ステロイドホルモンの増大が生活習慣病を改善させるか?	立命館大学 スポーツ健康科学部 准教授
井出幸二郎 41 歳	短時間の律動的な呼吸運動が注意機能を亢進させるか否か。	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 助教
洪性賛 34 歳	サッカーにおけるナックルボールの空力特性と無回転キックのスウィング動作の特徴	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 博士課程 3 年
秋間広 44 歳	股関節屈曲による大腿直筋の筋収縮は中間広筋の筋活動を引き起こすか?	名古屋大学総合保険体育科学 センター准教授
左右田あみ 30 歳	保健体育教育がおよぼす子どもたちへの影響と役割	広島大学大学院 国際協力研究科 教育文化専攻 修士課程 1 年
溝口紀子 39 歳	女子柔術・柔道における歴史社会学的研究	静岡文化芸術大学 文化政策学部 国際文化学科 准教授
高橋京子 33 歳	インドの伝統的マーシャルアーツの健康科学としての機能の解明	早稲田大学 オープン教育センター 助教

YMFS 国際スポーツ奨学金 第5期生対象者			
氏名 年齢	留学国／留学先校	留学テーマ	所属大学
宇治 誠 25 歳	イギリス／Liverpool John Moore University	世界でも通用する指導者になるために、より高いレベルの専門的知識を修士課程と博士課程から学ぶ。	Liverpool John Moore University 3 年
氏名 年齢	国籍	留学テーマ	所属大学
呂 路 27 歳	中国	中国における大学運動選手の社会的スキルとスポーツ経験の影響	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 修士課程 1 年
朴 京真 27 歳	韓国	ナショナルカリキュラムからみたダンス教育に関する研究	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 博士課程 1 年
林 欣儀 29 歳	台湾	自転車ツーリズムの地域活性化効果に関する研究—台湾台北市と日本美濃市を例として	首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 観光科学専攻 博士課程 1 年

(II) スポーツ振興支援事業

- ① ジュニアヨットスクール葉山では、レーシングクラスのスクール生がユース代表強化選手に選出されたり、夏に実施した自然体験学習で子どもたちの成長を実感するなど着実に成果をあげました。
- ② セーリングスポーツの一層の振興を図るため、セーリング指導教材ムービーとテキストを Web サイト掲載しました。
- ③ スポーツ教材提供においても、指導者の熱心な指導のもと、教材が有効に活用されました。
- ④ 水辺の風景画コンテストにおいても、コンセプトの浸透とともにイキイキとした作品が多数寄せられました。

①ジュニアヨットスクール葉山

- スクール生(高校2年)がユース日本代表強化選手に選出され豪州ユース選手権に出場しました。
 - スクールカリキュラムに自然水辺体験学習を取り入れ、夏期間に着衣泳・水難安全講習・セーリング合宿・黒姫高原トレッキング・伊豆大島ヨットクルージング・逗子海岸清掃ボランティアを実施しました。通常のセーリングによる指導に加えて、リーダーシップやチームワークなどを指導しました。
- ※保護者の方々から、遅しさと自発性、協調性など子どもたちの意識、行動変化を実感した旨の感想を多数いただきました。
- 上記カリキュラムを加えたことにより、セーリングで指導すること、自然体験で指導することが明確になり、ジュニアヨットスクール葉山のモデルスクール化に一步近づきました。
- なお、今年度予定しておりました「第19回セーリングチャレンジカップ IN 浜名湖」は東日本大震災の深刻な状況を踏まえ、中止としました。



自然、他人、自分との関わり



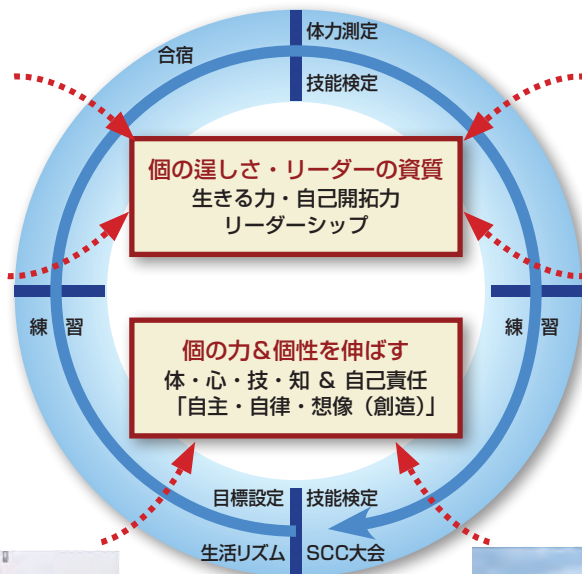
黒姫危険から安全を知る



チームビルド/チームワーク



ボランティア精神



自分で目標を立てます



一年間の成長を体力測定や技能検定で確かめます

スクール生の一年間の取組み

平成 22 年度 個別事業総括

② セーリング教材を Web サイトに掲載

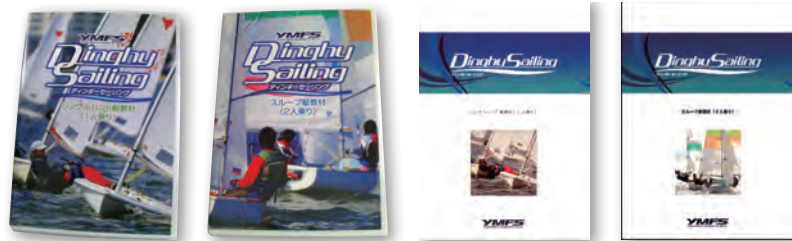
- セーリング愛好者のレベル向上と、セーリング指導者の活用によるセーリングスポーツの裾野拡大を目的として、以下の教材を財団 Web サイトに掲載しました。

※ムービー教材を財団専用 You-tube 動画サイトに掲載

「シングルハンド艇ムービー（1人乗り）」 「スループ艇ムービー（2人乗り）」 「指導者用ムービー」

※テキスト教材を財団サイトに PDF 形式で掲載

「シングルハンド艇テキスト（1人乗り）」 「ダブルハンド艇テキスト（2人乗り）」



③ スポーツ教材提供

- 4月15日～5月31日の期間、今年度から導入の電子申請による募集を実施しました。
 - 申請方法が簡便化されたことにより、611件（前年588件）と多数の申請がありました。
 - 6月10日、日本体育協会の岡崎専務理事による抽選で47団体を選出、配布しました。
 - 活用に関しては、昨年の文部科学省からの新学習要領への取組みと合わせて、子供たちの体力向上に向け創意工夫を凝らすなど、指導者の方々の熱心な実施が多く見られました。
- ※配布先からの活用報告や事務局レポートは財団 Web サイトに掲載しております。



④ 第22回「全国児童水辺の風景画」コンテスト

- 全国の都道府県から8307点の応募があり、5166点の応募があった2009年度と比較して1.6倍の応募数となりました。
- 10月18日に静岡・ヤマハ健康磐田体育館で予選会を行い、合計474点の入選作品を選出しました。
- 10月26日に東京・日展会館で最終審査会を行い、文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞をはじめとする合計33点の入賞作品を選出しました。



(Ⅲ) スポーツ文化・啓発事業

- ①「第3回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」（功労賞・奨励賞）には下記の3名の方が選ばれました。
 - ・2010年10月1日～11月15日の期間、スポーツ関連各所から14名の候補者推薦をいただき、その中から、2回の選考委員会と理事会の承認を経て、受賞者を決定しました。
 - ※2010年の残りの1ヵ月半の期間に、事務局と選考委員会で候補の有無を検討。
- ②スポーツ発展途上人に対してアンケートを実施しました。
 - ・スポーツにおける発展途上人の現状の考えや意見を聞くため「YMFS スポーツ討論会」を企画、そのベースとなるアンケートをスポーツチャレンジ助成第4期生と第5期生を中心に実施しました。
 - ※「スポーツ チャレンジ ウィーク」にて「YMFS スポーツ討論会」を実施予定でしたが、東日本大震災の深刻な状況を踏まえ、中止しました。
- ③ Web サイトを3月7日にリニューアルしました。
 - ・情報発信力強化を目的に、コンテンツの量増加および質向上、ユーザビリティ向上を図りました。

YMFSWeb サイト <http://www.ymfs.jp/>

① 第3回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞

功労賞	高田 静夫さん	世界トップレベルのレフェリー輩出と、質・量ともに安定した国内審判員の育成 ～ 審判員育成をめざした各種制度の確立と運用 ～
	中村 宏之さん	「北海道から世界へ」をスローガンに、独自開発のトレーニング法を開発・実践 ～ 雪国から世界で活躍する選手の育成 ～
奨励賞	中北 浩仁さん	国内競技人口50人、1996年世界選手権 0-21のマイナー競技が男子団体で夏冬合わせて日本初のメダルに挑戦

浅見俊雄選考委員長による総評

本年度は、バンクーバー五輪や広州アジア大会、サッカー W 杯南ア大会など大きな大会が重なったことに加え、3 回目を迎えたこのスポーツチャレンジ賞の「縁の下の力持ち」を表彰するという主旨の理解が進んだこともあり、さまざまな競技団体やメディアの皆さんから功労賞 4 名、奨励賞 10 名の計 14 名もの素晴らしい候補者の推薦をいただきました。その中から候補者選考会、候補者決定審査会、理事長決定という段階を踏み、平成 22 年度の受賞者として功労賞 1 名、奨励賞 2 名の方を選考委員会の満場一致で選出させていただきました。私たち選考委員にとりましても、この 3 名の皆さんを選ばせていただいたことは誇りでもありますし、今後さらなる活躍を期待するとともに、この賞が全国各地でスポーツを支えている多くの「縁の下の力持ち」にとって励みになることを願っています。

平成 22 年度 個別事業総括



功労賞 高田 静夫さん

【チャレンジテーマ】

世界トップレベルのレフェリー輩出と、質・量ともに安定した国内審判員の育成
～ 審判員育成をめざした各種制度の確立と運用 ～

【選考理由】

高田氏が JFA 審判委員会委員長に就任後、岡田正義氏、上川徹氏、西村雄一氏を筆頭に、世界トップレベルで活躍する審判員を途切れることなく育成。

2010年ワールドカップ南ア大会では、西村氏が日本人として初めて4試合で主審を務め（副審は相楽亨氏）、決勝戦では第4の審判を務めた。また、レフェリーカレッジの卒業生も2010年 J 1リーグで活躍を始めており、日本人審判員の質の向上、裾野の拡大（量の安定）の2点について、高田氏が取り組んだ国内審判員の基盤・体系づくりが大きな成果を挙げた。



奨励賞 中村 宏之さん

【チャレンジテーマ】

雪国から世界をめざすトレーニングの独自開発と実践

【選考理由】

2007年に北海道ハイテク AC に加入した福島千里は、100m と 200m で自己の持つ日本記録を毎年更新。寺田明日香も全日本選手権の 100 m H で 3 連覇を飾り、日本歴代 3 位の記録を打ち立てるなど、日本を代表するアスリートを輩出している。2010 年アジア競技大会では、福島が 100m と 200m の 2 種目で金メダル、4 × 100m リレーで銅メダルを獲得し、めざす「世界」に向けて順調な成長を果たしている。



奨励賞 中北 浩仁さん

【チャレンジテーマ】

国内競技人口50人、1996年世界選手権 0-21のマイナー競技が男子団体で夏冬合わせて日本初のメダルに挑戦

【選考理由】

2006年トリノパラリンピックでは決勝トーナメント進出を逃し5位。2008年ポストン世界選手権、2009年チェコ世界選手権では長野以来の「5位の壁」を破って4位。2010年バンクーバーパラリンピックでは、グループリーグでチェコと韓国を連破して決勝トーナメントに進出し、準決勝では地元カナダを 3-1 で破る快挙を成し遂げた。決勝は世界ランク1位のアメリカに敗れたものの、パラリンピック男子団体競技で夏・冬合わせて日本初のメダル（銀）を獲得した。中北監督体制は2014年ソチ大会まで継続され、次回は金メダルをめざす。

② スポーツ発展途上人に対してアンケートを実施

- スポーツにおける発展途上人の現状の考えや意見を引き出し反映することにより、多くのチャレンジャーの参考にしたリ、スポーツ界の発展に寄与すべく YMFS スポーツ討論会を企画しました。
 - ベースとなるアンケートを 3 月上旬にスポーツチャレンジ助成第4期生と第5期生を中心に実施しました。
- ※なお、アンケートにつきましては、現在、集計分析中です。
- ※また、YMFS スポーツ討論会については、スポーツチャレンジウィークにて実施予定でしたが、東日本大震災の深刻な状況を踏まえ、中止しました。

③ Web サイトのリニューアル

財団基本情報を集約

事業活動を想起する画像に変更

4つの大窓で旬な情報を提供

各事業で伝えたい情報を小窓に

社会へのリリースやインフォメーションを集約

情報量の多い「ジュニアヨットスクール葉山」を独立（リンク）

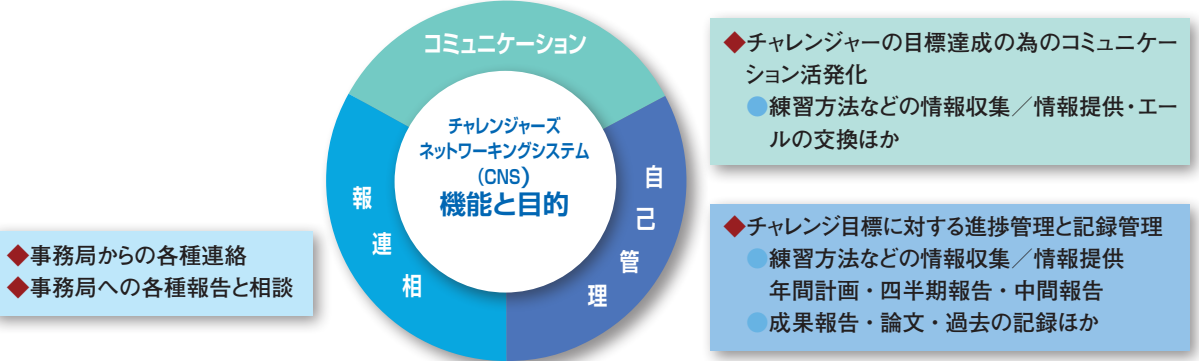
財団活動、事業活動でのトピックスを集約

第2ステージへの布石

- 財団の第2ステージ“社会から認められる財団になる”を目指す為に、事業活動の質の向上・進化および情報開示・発信力の強化は不可欠であり、そのための布石を以下のとおり行いました。
- (1) 各事業においてコミュニケーションやマネジメント向上のためITの活用、対応を行いました。
 - (2) 第2ステージ目標達成に向けて下記のとおり組織体制を充実しました。

(I) IT の活用・対応

- ① 「チャレンジャーズ ネットワーキング システム」を構築（スポーツチャレンジ助成事業）
- スポーツチャレンジ助成事業で、チャレンジャーとのコミュニケーションとマネジメントの効率化を目的に、チャレンジャー（OB含む）、審査委員、事務局のコミュニティサイトとして「チャレンジャーズ ネットワーキング システム」を構築し、5月14日より運用を開始しました。
 - コミュニケーションでは、主にチャレンジャー同士や審査委員の先生方との情報交換を、マネジメントでは、事務局業務連絡や四半期報告、成果報告などに活用しています。



- ② 各種募集に関して、電子申請方式を採用
- スポーツ教材提供事業では、4月15日～5月31日の期間、電子申請募集を行いました。申請の簡便さもあって、前年(588件)を上回る611件の申請がありました。
※事業の詳細はWebサイトに掲載しております。

抽選をしていただいた日本体育協会 岡崎専務理事

近年子どもたちの体力低下が叫ばれる中、このスポーツ教材提供の申請が増加していることは各団体の指導者の方々が、子供たちの体力・運動能力の向上やスポーツの裾野拡大に向けて積極的に取り組んでいることの表れでもあり、大変喜ばしく思います。多くの申請団体の中から選ばれた教材の提供先には、貴重な教材でもありますので、是非とも子供たちのために有効に活用していただきたいと思います。

- スポーツチャレンジ助成事業では、第5期生募集に際して、9月1日～11月15日の期間、電子申請募集を行い、151件(前年150件)の申請がありました。最終申請はしなかったものの予備申請が300件あり、申請のし易さと事業の浸透がうかがえます。
※事業の詳細はWebサイトに掲載しております。

応募(申請)	第1期生	第2期生	第3期生	第4期生	第5期生	前年比
体験	74	29	45	46	49	107%
研究	101	65	76	84	90	107%
海外留学生	2	3	2	6	2	33%
外国人留学生	14	20	15	14	17	121%
計	191	117	138	150	158	105%

(II) 組織体制の充実

- 第2ステージ目標達成に向けて下記のとおり人員体制を充実しました。
 - ① 役員体制(評議員会、理事会、新理事長)
 - ② 審査委員体制(スポーツチャレンジ助成事業)
 - ③ 葉山スクールコーチ体制

●役員体制

【評議員】	役職	常非常勤	氏名	現職
	評議員	非常勤	岡崎 助一	(財)日本体育協会 専務理事
	評議員	非常勤	塩谷 立	衆議院議員
	評議員	非常勤	武井 一浩	弁護士
	評議員	非常勤	戸田 邦司	(財)日本海洋レジャー安全・振興協会 会長
	評議員	非常勤	晝馬 明	浜松ホトニクス(株) 代表取締役社長
	評議員	非常勤	柳澤 伯夫	元衆議院議員
	評議員	非常勤	柳 弘之	ヤマハ発動機(株) 代表取締役社長
	評議員	非常勤	大坪 豊生	ヤマハ発動機(株) 取締役常務執行役員
	評議員	非常勤	清水 紀彦	ヤマハ発動機(株) 監査役
	評議員	非常勤	梶川 隆	ヤマハ発動機(株) 顧問
	評議員	非常勤	西山 正樹	ヤマハ発動機(株) 顧問

【理 事】	役職	常非常勤	氏名	現職
	理事長	非常勤	木村 隆昭	ヤマハ発動機(株) 代表取締役専務執行役員
	常務理事	常勤	岸川 善次郎	当財団 事務局長兼任
	理事	非常勤	浅見 俊雄	東京大学 名誉教授、日本体育大学 名誉教授
	理事	非常勤	伊坂 忠夫	立命館大学スポーツ健康科学部 教授(副学部長)
	理事	非常勤	伊藤 宏	東京都ヨット連盟 理事
	理事	非常勤	加賀谷 淳子	日本女子体育大学 名誉教授
	理事	非常勤	勝田 隆	仙台大学体育学部 教授
	理事	非常勤	木沢 裕一	(株)電通 執行役員
	理事	非常勤	鈴木 大地	順天堂大学スポーツ健康科学部 准教授
	理事	非常勤	平 忠彦	タイラレーシング(株) 代表取締役社長
	理事	非常勤	橋川 隆	(社)日本マリナー・ビーチ協会 理事
	理事	非常勤	柳 敏晴	名桜大学人間健康学部 教授(学部長)
	理事	非常勤	鈴木 正人	ヤマハ発動機(株) 取締役上席執行役員

【監 事】	役職	常非常勤	氏名	現職
	監事	非常勤	田宮 紳司	新日本有限責任監査法人 代表社員 公認会計士
	監事	非常勤	樋上 芳昭	ヤマハ発動機(株) 人事部



第2ステージへの布石

●審査委員体制（スポーツチャレンジ助成事業）

【体験助成審査委員】

審査委員長	浅見 俊雄	(財)日本サッカー協会顧問/東京大学・日本体育大学名誉教授
審査委員	西田 善夫	NHK元解説委員・スポーツアナリスト
審査委員	ヨコ ゼッターランド	元バレーボール選手・スポーツキャスター
審査委員	今給黎 教子	海洋冒険家
審査委員	村田 互	ラグビー7人制日本代表監督
審査委員	大坪 豊生	ヤマハ発動機(株)取締役
審査委員	岸川 善次郎	当財団事務局長

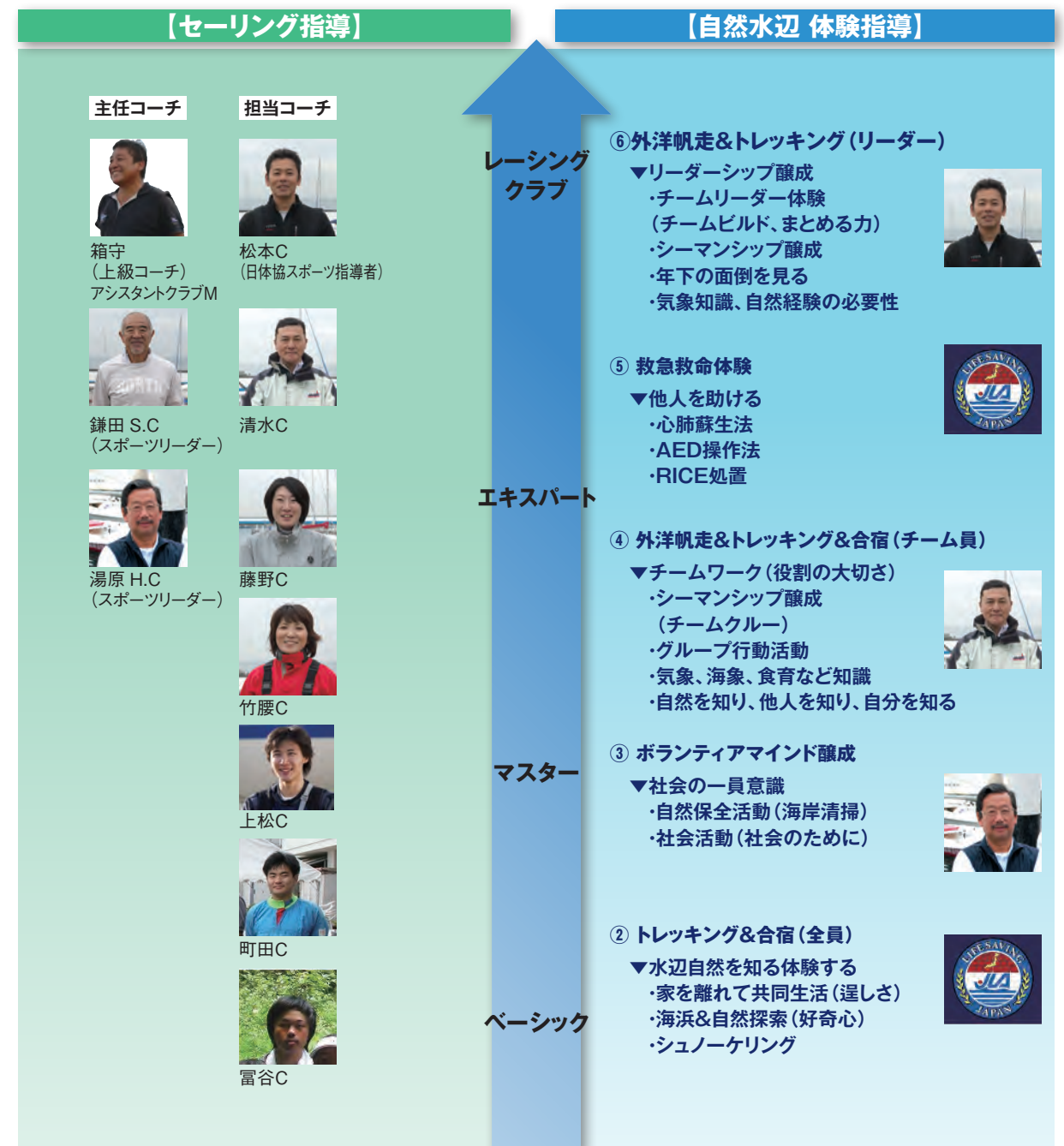
【研究助成審査委員】

審査委員長	浅見 俊雄	(財)日本サッカー協会顧問/東京大学・日本体育大学名誉教授
審査委員	加賀谷 淳子	日本女子体育大学名誉教授・運動生理学
審査委員	福永 哲夫	鹿屋体育大学学長・バイオメカニクス
審査委員	伊坂 忠夫	立命館大学スポーツ健康科学部教授・バイオメカニクス
審査委員	草加 浩平	東京大学大学院特任教授・設計工学研究室・産業機械工学
審査委員	篠原 菊紀	諏訪東京理科大学共通教育センター教授・健康教育学
審査委員	景山 一郎	日本大学生産工学部教授・車両運動制御
審査委員	寒川 恒夫	早稲田大学スポーツ科学学術院教授・スポーツ科学
審査委員	吉田 茂	筑波大学人間総合科学研究科教授・体育科学
審査委員	綿貫 茂喜	九州大学大学院芸術工学研究院教授・生理人類学
審査委員	衛藤 隆	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所副所長、東京大学名誉教授
審査委員	遠藤 保子	立命館大学産業社会学部教授、文化人類学・体育学
審査委員	川上 泰雄	早稲田大学スポーツ科学学術院教授、バイオメカニクス
審査委員	小西 由里子	国際武道大学体育学部教授、スポーツ医学
審査委員	定本 朋子	日本女子体育大学大学院研究課長・基礎体力研究所所長・教授、運動生理学
審査委員	田原 淳子	国士舘大学体育学部教授、スポーツ史学・スポーツ哲学
審査委員	山本 裕二	名古屋大学総合保健体育科学センター教授、スポーツ心理学
審査委員	鈴木 正人	ヤマハ発動機(株)取締役

※寒川審査委員、吉田審査委員は今期中の任期です。



●「ジュニアヨットスクール葉山」コーチ陣の充実



目標管理&カルテ

セーリング日誌	体力測定&指導(2回/年)
通信簿&アンケート	生活リズム指導(2回/年)
生活リズム調査	

【基本データ収集&分析】

※本人・コーチ・家庭の連携

佐藤 C
(日体協アスレチックトレーナー)

